

## I. Dr.パンドウイット紙上セミナー「LAN配線のグチャグチャや管理不能状態に陥らないために」

### 第2回 責任分界点と責任者、責任範囲の明確化

前回は責任分界点の基本的な考え方と、その例について述べましたが、これをお読みの皆様は以下のような経験をお持ちではありませんか。

「このケーブルだれがいつの間にひいたんだ？何に使っているの？」

「このポートは空いているはずなのに、だれか勝手に使ったな？」

誰もが思い当たる節があるのではないのでしょうか。私自身もこのようなケースは何度も遭遇したことがあります。

#### 「責任範囲」に関する主な要素

秩序あるきれいなケーブルリングを維持しながら運用するためには、責任分界点に関わる責任者と責任範囲を明確にしておく必要があるのです。責任範囲を定義するために明確にしておく必要がある要素には、主に以下のようなものがあります。

- ◇ 責任者それぞれの責任範疇
- ◇ 責任分界点の設置者
- ◇ 責任分界点の形状(IFなど)
- ◇ 隣接する責任者の属性(所属、連絡先等)
- ◇ 障害時のルール

これら以外にもコストの負担方法など決める必要のあることは、状況に応じて様々あると思いますが、まずは基本として上記を押さえておきます。

#### 責任範囲と分界点の決定と設置

責任範囲は一言でいうと「ここが責任分界点です。ここから先は、あなたの責任範囲ですのでコチラは一切触りません」という境界、区間を決めることです。

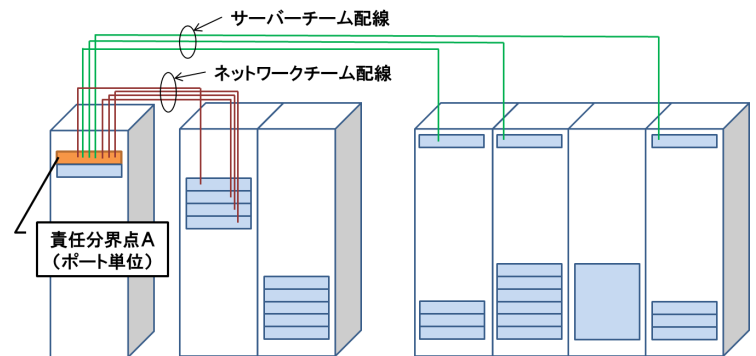
責任分界点を決め、相互に接続できる物理的な境界を、そこに設置する必要がありますが、それは誰が行うのがよいでしょうか。基本的にはそのサービスを提供する人、たとえばネットワーク環境であれば、『接続サービス』を提供するネットワーク管理者であったり、ネットワークを含めた『物理インフラ』をサービスとして提供するファシリティチームなどが該当します。これらのサービス提供者が、サービスを受ける側の要望を聞いた上で、運用性、可用性、拡張性や予算を考慮して選択、設置するのが望ましいです。

#### 責任分界点の形態

責任分界点は、提供するサービスが同じである場合、できる限り同じ形状(IFなど)のものを使用するのが望ましいです。具体的にはパッチパネルやローゼット、情報コンセント、スイッチなどです。また、一度設置したら安易に移動ができない形状のものを選択することもポイントです。位置が固定されていることで「ここが責任分界点」ということをより明確化できるためです。

たとえば以下のような割り当てをしたとします。

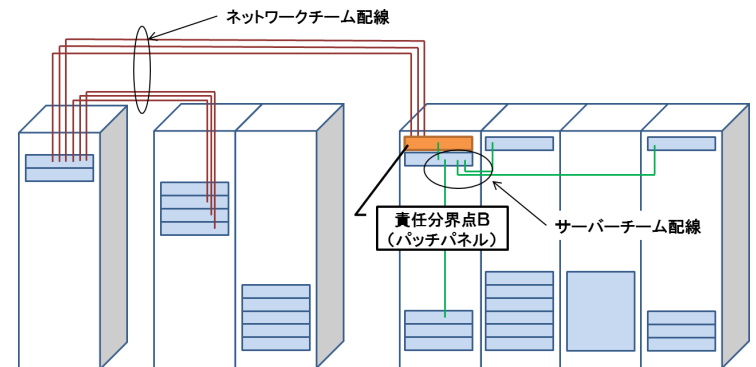
- スwitchの7、16～18番ポート：ネットワークチーム(ネットワークチームが配線=赤)
- 同じSwitchの9、11～12番ポート：サーバーチーム(サーバーチームが配線=緑)



このように一つのスイッチやパッチパネルのポート単位で割り当てると、配線されているケーブルの帰属やだれが配線を行ったか、ということがあいまいになりがちで、後々混乱を招く要因になってしまいます。

一方、スイッチやパッチパネル単位で責任分界点を設置した場合はどうでしょうか。

- 責任分界点Bのパッチパネルまで：ネットワークチーム(ネットワークチームが配線=赤)
- 責任分界点Bのパッチパネルから先：サーバーチーム(サーバーチームが配線=緑)



この責任分界点Bは「パッチパネル」で提供されています。これは設置されている4本のラック内のシステムで運用されているサービス用として提供されているものです。ネットワーク担当は、このパッチパネルまでの接続を確実に維持することが責任範囲

となります。パッチパネルから先の接続性は、そのサービスの運用担当の責任範囲となります。

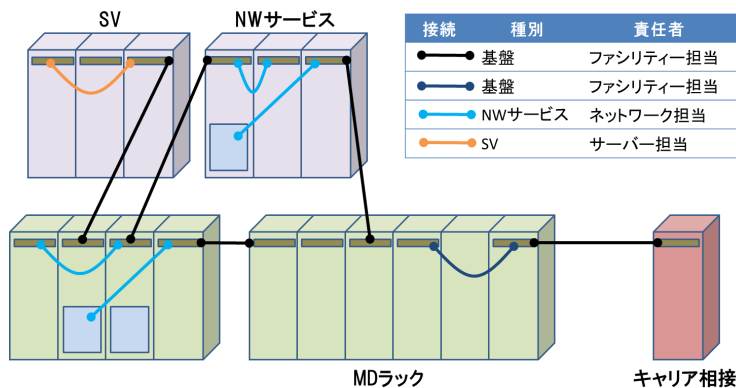
このような形で責任分界点を設置すると、各々の責任範囲が非常にクリアになり、障害が発生した場合でも切り分けをスムーズに行うことができます。

このように、責任分界点をわかりやすく、運用しやすい形で作ることは、大変重要なポイントです。

## ネットワーク全体の責任分界点の定義

さらに、外部引き込みがある場合の責任分界点はどのようになるでしょうか。

通常、キャリアとユーザーとの責任分界点は、キャリア側が指定してきます。下図はパッチパネルを分界点とし、関係部署の責任範囲を例として示しています。



このような形で各々の接続について、属性と責任者(責任部署)を定義しておきます。一貫した考え方で責任分界点を作っておくことによって、何か問題が発生した場合だれに連絡を取らなければならないか、容易に判断することができます。この「連絡先」の情報を常に整理、共有しておくことも、非常に大切なポイントです。

「どの部分は、どこ(誰)が担う」という責任者とその範囲を明確にしておくことは、単に障害切り分けに役に立つだけでなく、ネットワーク全体の運用の「組み立て」や、ポリシーの策定にもかかわる重要な部分で、運用の質や効率に大きな影響を及ぼします。また、これらを積み上げていくと、ITの物理インフラの「全体像」というものが次第に見えてくるようになってきます。

責任分界点と責任範囲の重要性についてはご理解いただけたでしょうか。

次回は責任分界点とネットワークの設計の関係についてお送りします。楽しみに。

## Ⅱ. LAN配線お役立ち製品トピックス

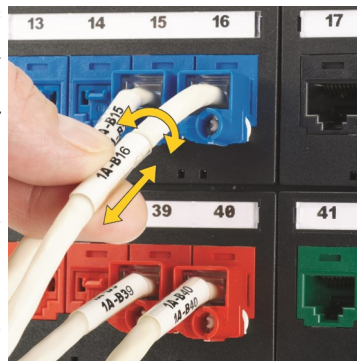
### ケーブル表示ラベルの革新!『回転ラベル』

当社の営業がお客様に紹介して非常に評判が良かった製品をご紹介します。今回は『回転ラベル』です。

ケーブルの識別表示を適切に行うことは、秩序あるLAN配線を維持するために欠かすことはできません。しかし、ケーブルが密集していたり、ラックの高い位置だったりすると、ラベルの向きが悪く表示を読むのにとっても苦労したり、ケーブルを無理やりねじってヒヤヒヤした経験は、どなたにもあると思います。

そこでおすすめしたいのが『回転ラベル』。ケーブルにラベルを張り付けた後で、ラベルを回転、移動させることができるので、どんな角度からでも読み取ることができます。また両端にコネクタがついているケーブルや、機器に接続された状態のケーブルにもラベルを貼り付けることができますので、配線の変更作業など大変楽にできます。

従来の熱転写プリンター用、現場で印字できるハンディプリンター用に加え、レーザープリンター用も新たにラインナップに追加されました。お手持ちのレーザープリンターで作成できるようになり、お手軽に回転ラベルをご利用いただけるようになりました。



回転ラベル

只今サンプルを無料で差し上げております。当社Webサイトの問い合わせコーナー、もしくはお電話で「回転ラベルサンプル希望」とお知らせください。

## Ⅲ. ショールーム(CBC)のご案内

当社ではデータセンター・サーバールーム、オフィス、工場におけるLAN配線のベストプラクティスをご覧いただけるショールーム“CBC(カスタマーブリーフィングセンター)”を公開しています。見学をご希望の方は以下のアドレス宛にメールでご一報ください。

JPN-CBC-Admin@panduit.com



データセンターやサーバールームの  
安定稼働を実現する技術サイト

LAN ケーブル配線.COM

<http://www.lan-cabling.com/>

LAN ケーブル配線 技術ニュースレター

発行:パンドウイトコーポレーション日本支社

TEL:03-6863-6050

<http://www.panduit.co.jp/>

本社/ショールーム

〒108-0075 東京都港区港南

2-13-31 品川INSSビル